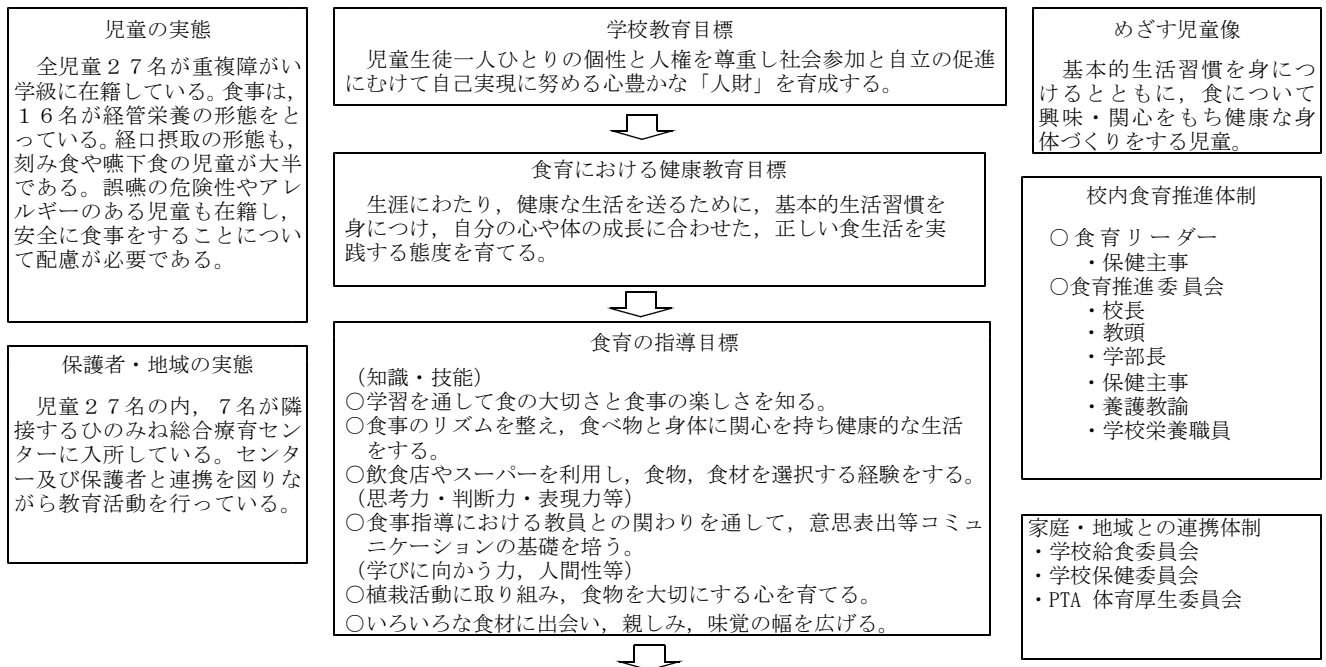


特別支援学校食育全体計画（小学部）

徳島県立ひのみね支援学校（小学部）



発達段階に応じた食育の到達目標		
I 段階	II 段階	III 段階
・口腔内の感覚活用の経験をする。	・たくさんの食材にふれる経験をとおりて食することに興味・関心をもつ。 ・初めてのことに挑戦してみようとする力が育つ。	・好き嫌いを少なくしながら、よくかんで食することができる。 ・他との関わりの中で、自分のことは自分でできる力を培う。

		I 段階（経口摂取はできず、胃ろうまたは経鼻経管栄養による栄養摂取を行うレベル）	II 段階（自分で行うには補助や指示が必要なレベル）	III 段階（場や状況に応じて、自分で行動できるレベル）
各教科	生活理科 家庭		・食べ物を3つの食品グループに分けることができる。ごはんやお味噌汁を教員と一緒に作る。	・野菜等の栽培を通して、成長を観察したり食べ物や自然を大切にしたりする心を育てる。
各教科等 を 導	合科学習	・野菜を育てたり収穫したりして、季節の食物に触れたり、食物に対する関心を育てる。	・季節の野菜や果物を収穫したり味わったりする。 ・飲み物やお菓子などの香りや味を味わう。 ・校外学習時に飲食店を利用し、楽しく食事をする。 ・絵本の読み聞かせをとおして、食事の時間、食べ物を意識できる。	・季節の野菜を栽培し、収穫する。また、収穫した野菜を使ってカレー作りをする。 ・校外学習時に飲食店を利用し、楽しく食事をする。
領域別の 指導	自立活動	・食べ物を取り込む唇の動きや、嚥下に繋がる間接訓練をリラックスして受け、口腔内の機能を高める。 ・体調や覚醒レベルに応じて、楽で安全な姿勢で、胃ろう注入を受け入れる。 ・食事をともにする人とのふれあいをとおして、食事時間の楽しさを知る。 ・季節の果物や野菜の香りを楽しんだり触ったりして「食」に触れる。	・スプーンやフォークを使って食べる。 ・ストローやコップで飲む。 ・見て聞いて触って嗅いで味わってみる。 ・食べ物の名前を知る。 ・いろいろな食べ物を食べる。 ・よくかんで食べる。 ・食事をともにする人と一緒に、食べる楽しさを知る。 ・残さず飲み込む。	・主食や副食を取り合わせて、好き嫌いなく食べる。 ・外食のマナーを知り、会話をしながら楽しく食事をする。 ・食事にかかわる人や自然の恵みに感謝して食べる。 (総合的な学習の時間) ・学校周辺へ出かけ、地域の様子を観察したり、人とふれあったりする。
	特別活動	4・5・6月	7・8・9・月	10・11・12月
	学級活動	校外学習		校外学習
	学校行事	健康診断		体育祭 文化祭
地場産物の活用等		ミニキャロット レモンバーム	ナス、きゅうり、トマト、 ピーマン、ししとう	ラディッシュ 芽キャベツ
給食行事				
PTA 行事				
個別指導		・安全な飲食指導のための研修や情報収集 ・個々に合わせた食事指導 ・肥満傾向児への指導 ・アレルギー調査→個別相談（個別対応についての共通理解）など ・ST コンサルテーション（食事）		
家庭・地域との 連携		・食育だより年3回（保護者用）発行 ・学校保健委員会 ・栄養個別指導（肥満等） ・地元の農家等との連携（地産地消） ・旬の食材の使用		

○昨年度からの見直し点

- ・Ⅰ段階では児童の実態から、口腔内のケアをすすめ、機能を維持したり高めたりすることを目的に取組を継続している。また、個に応じた方法で栽培や収穫に取り組み、季節の食物を味覚、嗅覚、触覚などの感覚を活用して楽しむことができるよう充実した計画をしている。
- ・Ⅰ段階からⅢ段階に該当する児童で、周囲の人とのふれあいを通して、食をとる楽しさを伝えられるように考えている。また、口唇訓練に関しては、学習グループでお互いに確認しながら行ったり、Ⅲ段階の児童にも必要に応じて個別でも行うことにした。

○創意工夫した点

- ・より食べ物に身近に触れられるように栽培や収穫を授業に取り入れている。また収穫した食物を使って調理を行い、生活と結びつけて考えられるよう計画している。
- ・アレルギー等により直接野菜に触れることに配慮が必要な児童については、絵本の読みきかせをとおしての食事の時間・食べ物への関心を高める活動を継続して行っている。